

成果報告書

(地域部活動推進事業)

名張市立桔梗が丘中学校

所在地	三重県名張市
運営主体	(パソコン部)近畿大学工業高等専門学校 (茶道部)桔梗が丘自治連合協議会
事業目標	・学校における働き方改革を進めていくうえで部活動をどのように位置付け、持続可能なものとしていくかについて、関係者と検討する場を設け、部活動改革の実現を図る。 ・部活動改革の一つの手段として、生徒が継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう、学校単位の部活動を地域単位の活動に移行するため、地域における団体等との連携について検討をすすめる。
団体・組織等の連携	
活動場所	(パソコン部)近畿大学工業高等専門学校 (茶道部)名張市立桔梗が丘中学校
活動概要	(パソコン部) 近畿大学工業高等専門学校教授・学生を指導者として位置付け、参加希望者を募って、月1回程度、土曜日に活動を行う。 (茶道部) 師範免状を有する地域住民を指導者として位置付け、月1回程度、土曜日に活動を行う。

〇本事業による成果

【教員の働き方改革等】

・パソコン部顧問は、令和2年度は野球部顧問であり、令和2年度と令和3年度の同時期の勤務時間等についての比較は以下の通りである。ただし、茶道部は、令和3年度創部のため、令和2年度との比較はできない。

		時間外勤務の総時間数		休日の部活動総時間数	
令和2年9月1日～12月31日	(野球部)	30	時間	10	時間
令和2年9月1日～12月31日	(パソコン部)	12	時間	0	時間
		▲ 18	時間	▲ 10	時間

- ・教員の働き方改革として、休日の部活動を外部指導者に委託するという方法を実際に示すことができた。
- ・両部の顧問ともに、令和3年8月20日(契約日)以降における休日の部活動は0時間であった。
- ・学校のパソコンは古く動作も遅かったため、もっと良い環境で活動させたいという思いが軽減された。

【生徒の活動成果等】

- ・専門的な知識や、新しい技術や設備に触れることにより、スキルと活動意欲の向上が見られ、興味関心を深めることにつながった。
- ・回数を重ねるごとに生徒が積極的になってきた。来年度は、技術的に高度なことにもチャレンジできればよい。
- ・平日の限られた部活動時間ではできない作法の練習や知識の伝授について、時間をかけて練習でき、充実した活動を行うことができた。

(肯定的な意見の割合)

	生徒		保護者	
	パソコン部 12 人	茶道部 12 人	パソコン部 11 人	茶道部 12 人
休日の専門の指導者による部活動で(子どもの)技術が向上したか	11 人 92%	12 人 100%	10 人 91%	9 人 75%
休日の専門の指導者による部活動に(子どもは)満足しているか	12 人 100%	12 人 100%	11 人 100%	11 人 92%
休日の専門の指導者による部活動で(子どもは)質の高い活動ができたか。			9 人 82%	11 人 92%

【その他、感想等】

＜パソコン部生徒＞

- ・専門的な技術に詳しくなった。
- ・地道に課題に取り組めるようになった。
- ・タイピングや操作技術が大きく向上した。
- ・普段使っているプログラミング言語以外の言語を知ることができた。
- ・3Dプリンターの使い方を知ることができた。

＜茶道部生徒＞

- ・平日より長い時間、ゆっくり教えてくれるので、茶道の知識や作法を覚えることができた。
- ・学校の教員でない大人とのコミュニケーションを経験し、上品に歩くことを学び、日々の生活に落ち着きが出てきた。

＜保護者＞

- ・本人が分かりやすいと言っていた。
- ・部活動が終わった後、楽しそうに帰ってきて話をしてくれる。
- ・行儀作法だけでなく、友だちとの和を学んだように思う。
- ・今までできなかったことができるようになり、知識も増えている。
- ・中学校の部活動だけではできない内容を学んでいる。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・パソコン部においては、近畿大学工業高等専門学校の学生が、中学生が興味を持ちそうな内容を教授と相談しながら決定し、十分な活動ができるよう、進行予定表を作成し実施した。また、令和3年度は1回単位の内容で、その都度、参加者を募っていたが、継続的な課題を実施していくには、参加者の固定も検討していきたい。

○運営上の工夫

- ・顧問と指導者における活動内容の打合せや参加者への連絡はメールや電話で取りあい、情報共有を行った。また、顧問と生徒の連絡は、生徒用タブレットを用いることで、学校が休みの日でも連絡をすることができた。
- ・地域や近隣の学校との連携が普段からあったからこそ、人材を確保することができた。
- ・部員に対して部活動の時間に休日の部活動について説明し、休日に参加を希望する生徒を募った。

○継続的な運営に関する課題

- ・部活動の運営方法の新しい形として、負担軽減につながるものになりうるという見方がある一方、校内では運動部と文化部の意思統一が必要であり、ハードルが高そうという印象がある。また、自身が休日においても部活動指導を行いたい教員もいる。
- ・コロナウイルス感染症の影響等から、日程が定めにくく、また変更も起こりやすい。
- ・令和3年度は学校の茶室を使用していたが、来年度は地域の施設で行うことから、茶室がない場所でもできる活動内容を考えていく必要がある。

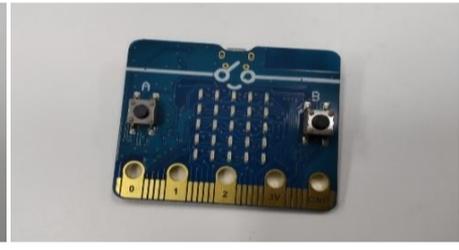
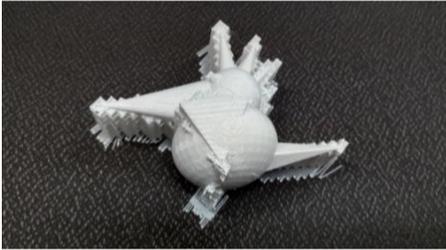
○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

- ・県教育委員会保健体育課と連携しながら、令和5年度からの地域移行の準備・検証を進める。部活動のあり方検討委員会(年2回)や市町等教育委員会との情報交換会(2か月に1回程度)を保健体育課とともに実施する。
- ・早い時期から計画的に行うことで活動時間を確保する。
- ・令和3年度は謝金や保険代を本事業経費から支出しているが、それらを受益者が負担することになっても、保護者の多くは活動に参加させたいとの意見である。一方、内容や本人次第であるという意見や、本来義務教育で謝金や保険代が発生するのか疑問に思っている保護者もいる。事業終了後やモデル校以外の中学校においても、受益者負担で活動を継続できるのかどうか、他の財源があるのかどうか等、市町等教育委員会や関係者等と協議するとともに、文化庁の情報提供をお願いしたい。
- ・休日の部活動も自身が指導したいという教員のために、兼職兼業の整理をする。また、休日における部活動も、部活動ガイドラインに則った活動としての位置づけをする。

参加者 (予定人数)	(パソコン部)1年15人、2年11人、3年7人 計33人 (茶道部)1年6人、2年1人、3年6人 計13人 両部とも、今後も令和3年度並みの予定
募集方法	・顧問から部員への口頭での通知 ・ポスター掲示 ・学校から保護者への文書での通知
指導者	(パソコン部)近畿大学工業高等専門学校から教授1名、学生10名 (茶道部)桔梗が丘自治連合協議会から茶道表千家師範1名、助手1名
移動手段	(パソコン部)保護者による送迎、公共交通機関 ※茶道部は校内で実施
活動費用	なし
スケジュール	8月 拠点校における実施準備 9月 第1回検証委員会(方針の確認) 地域部活動の活動開始・保護者への説明 11月 第2回検証委員会 (進捗状況の方向、中間まとめ、検討事項の精査等) 12月 部活動のあり方検討委員会(中間まとめ、検討事項の精査等) 1月 アンケート調査実施 2月 第3回検証委員会 (成果報告、来年度に向けた検討課題の確認) 3月 部活動のあり方検討委員会 (成果報告、来年度に向けた検討課題の確認)
保険加入等	スポーツ安全保険 (パソコン部)指導者11名、生徒33名 (茶道部)指導者2名、顧問1名、生徒12名

【活動の様子（写真添付）】

＜パソコン部＞



＜茶道部＞

